

社 会 科

他者と協働し、主体的に社会の問題解決に取り組む生徒の育成

—他者の考えを取り入れながら、自己内対話を紡ぐ社会科のカリキュラム・デザイン—

米林 哲郎・渡邊 晶・難波 誠

1 主題設定の理由

(1) 共通研究主題との関連

本校では、平成 28 年度から、新学習指導要領の実施を見据えて「深い学び」と「これからの時代に求められる資質・能力」の育成にむけたカリキュラム・デザインの在り方について研究を行ってきた。共通研究主題における「深い学び」とは、学習者がそれぞれの教科の見方や考え方を働かせながら、どんな課題も探究してみようとする意欲や態度の原動力であると考えられている。また、「これからの時代に求められる資質・能力」とは、他者と協働する力やこれからの時代の変化に主体的に向き会って関わり合おうとする力を指している。すべての生徒の「深い学び」を実現し、「これからの時代に求められる資質・能力」を育成するため、社会科では、教科ならではの見方・考え方を働かせながら、他者と協働し、主体的に社会の問題解決に取り組む生徒の育成を目指して研究を行ってきた。特に自分と他者のそれぞれの意見を比較・検討する活動の中で、新たな知識を得て価値判断が変わったり、多様な価値判断から自分の社会認識をさらに広げたり深めたりすることができる指導に重点を置いた。授業を通して生徒にどのような力がついているかを教師が評価し、それを生徒にフィードバックさせながら、教科のカリキュラムの見直しを同時に行っていく。それには、毎回の授業の計画や実践から見えた生徒の姿を教師が丁寧に見取って振り返り、さらに探究的な学びはないかとカリキュラムを見直せるような教師自身のマネジメント力が必要である。カリキュラム・マネジメントを確立させることができれば、授業の質のさらなる向上は期待できる。さらに社会科ならではの学習課題と学びの過程を振り返る活動を効果的に配置し、協働的な学びの意義を生徒自身が見出ししていくカリキュラムが定着していけば、他者や自分自身との対話を促し、さらに次の学習へと探求的に学び続けようとするのが期待できる。そこで、研究の副題は「他者の考えを取り入れながら、自己内対話を紡ぐカリキュラム・デザイン」とした。

(2) 本校社会科のこれまでの研究との関連

第 1 次研究では、思考力・判断力・表現力の育成を重視しながら、社会参画への意識を高めるねらいで、授業改善を行い、「未来を構想する力を引き出すカリキュラム・デザイン」を副題とした。授業改善のポイントは主に次の 2 点にある。

- ① 生徒の身近な生活や社会の問題に直結する学習課題を設定する
- ② 単元末に行うパフォーマンス課題に取り組む学習サイクルをつくる

第 2 次研究では、第 1 次研究を踏襲しつつ、よりよい学習課題の設定と単元ごとや 1 単位時間の振り返り活動に重点を置いたものとした。授業で設定する課題が、生徒が思わず考えたくなるようなものであるとき、主体的に根拠を探し出そうとしたり、他者との意見交換をこれまで以上に行うようになったりするのではないかと考えた。他者との協働的な学びを振り返る活動を効果的に組み入れていき、グループで行う学びこそが、社会の問題解決に取り組む生徒を育成する上でこれまで以上に有効に働くことを第 2 次研究のねらいとした。

(3) 生徒の現状と課題

本校の社会科では、平成 28 年度から研究主題である「他者と協働し、主体的に社会の問題解決に取

り組む生徒の育成」を研究主題として授業改善に取り組んできた。グローバル化が進み、変化の激しいこれからの時代や社会に求められるのは、自分と異なる考えをもつ他者との関わりを通じて、身の周りや国際社会における諸問題を、自分自身のこととして主体的に捉え、考えようとする姿勢や態度そのものである。社会科では、生活班の形で全ての授業を行い、対話を通じて学習課題に対する自分の意見を深めたり、新たな角度から考え直したりすることをねらいとしてきた。しかし、一つの正解だけを求める課題を設定すると、学習意欲の高い生徒や豊富な知識をもつ生徒は、いち早く正解にたどり着こうとするため、特定の生徒を中心とした学習になりがちであった。また、他者との話し合う活動がない課題設定をした場合、粘り強く課題解決に向けて追究したり、他者と関わって学びをより深めたりせず、すぐに対話が途切れてしまう傾向にある。そこで、他者とともに社会の課題を追究し、とことんまで他者と共に学ぶ楽しさを感じられる場面をつくりたいと考えた。これからの時代に求められている力は、多様な意見の中で、いかにして自分の意見をつくったり深めたりしていくかにあり、対話を通じて行われる協働的な学びが、どの生徒にも有効に働く必要がある。他者の意見がどれほど自分の学習を下支えしているか、また人と違う意見をもつことがいかに大切であるか、を生徒が互いに確認できる必要があると考え、本研究ではこれまでの研究の内容を踏まえながら、「学習課題の設定」と「学習過程の振り返り」に重点をおいたものとした。

2 目指す生徒像と研究仮説

(1) 目指す生徒像

本校の社会科では、第1次研究で示した目指す生徒像を踏襲しつつ、さらに協働的な学びの良さを生徒一人ひとりが見出すことに重点をおいたものとした。本校の社会科が目指す生徒像を次のように設定した。

- ・他者との協働的な学習を通して課題を解決したり、それに対する妥協案を見出したりしながら、主体的に社会問題を解決していこうとする生徒
- ・社会的事象に関連する資料（史料）や絵図から情報を読み取り、多面的・多角的な思考によって自分の考えを確立しようとする生徒

(2) 研究仮説

本校の社会科の学習のモデルを次に示した（図1）。魅力的で切実感のある学習課題を設定し、獲得した知識や見方・考え方をもとに、根拠をもって自分の考えをまとめることがまずは重要である。なぜなら、このあとの展開で行なわれるグループによる議論の後に、自分の主張がどのように変わったり、深まったりしたのかを、振り返りで確認するためである。

授業は、個人で考える場からグループで考える場へ、そして再び個人で考える場を設定することで、最終的に生徒は他者の意見や立場を踏まえて自分の主張ができると考える。自らのよりよい学びのために他者とともに学ぶことの意義を感じられる研究にするため、社会科では次のような仮説を立てた。

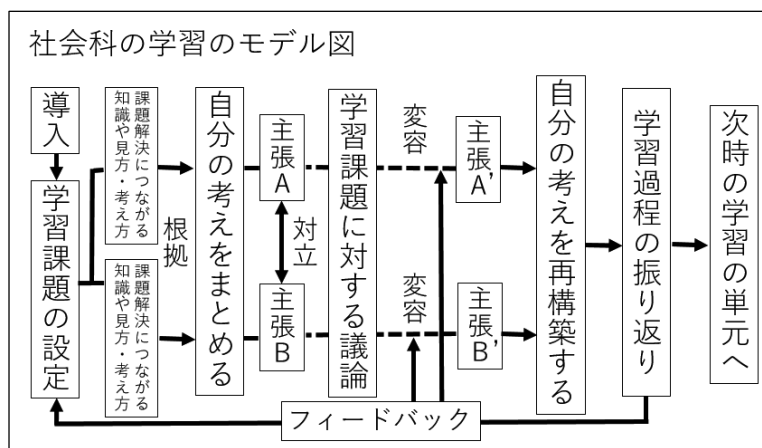


図 1

学習課題を解決したり、その学習過程を振り返ったりする活動を繰り返して行い、協働的な学びの良さに生徒自身が気づけるように指導をしていけば、他者と共に学習することこそが自らの学習に有効であり、主体的に社会の問題解決に取り組もうとする生徒を育成することができる。

3 研究計画

(1) 研究目標

切実感のある学習課題と振り返り活動の二つを研究の柱にし、授業を改善することで、他者と協働し、主体的に社会の問題解決に取り組む生徒の育成を目指したカリキュラムをデザインすること。

(2) 研究計画

- ① 対象生徒 本校第1～3学年生徒（36人学級，5クラス）
- ② 研究領域 他者と協働し、主体的に社会の問題解決に取り組む生徒の育成
- ③ 研究方法 先行研究を踏まえた授業の実践，まとめ
- ④ 検証方法 学習課題への取組，学習過程の振り返り活動の記述内容の検証

4 実践の概要

(1) 学習課題の設定

実践1 地理的分野 第1学年「単元8 人々の生活に根付く宗教」（「新しい社会地理」帝国書院）

社会科学学習指導案 第1学年 E組教室		
目 標	世界の人々の宗教の特色や分布を捉える活動を通して、宗教の学習をしていく上で注意事項を、自分のことばで表現することができる。【社会的な思考・判断・表現】	
学 習 活 動	指導・支援と留意点	評 価 等
1 本時の学習への興味・関心を高める。	1 日本に住む私たちの日常生活にも関連のある写真を提示することで、人々の生活と宗教が関連していることを意識できるようにする。	
2 学習課題を設定する。	2 学習課題が「世界の人々の宗教の分布を学習する上で、どのようなことに注意しなければならないか。」であることを伝える。	
3 三大宗教の特色を資料で確認する。	3 世界の三大宗教（仏教・キリスト教・イスラム教）の特色をノートに書くように指示する。	
(1) ノートに表を書き，三大宗教の特色を調べる。	(1) それぞれの宗教の開祖・経典・分布・特色について，調べたことを書くように指示する。	
(2) 宗派のちがいが異なる慣習があることを理解する。	(2) 教科書・地図帳の宗教の分布図等の資料を比較して，気づいたことをノートに書くように指示する。	
(3) グループで意見を確認してから，発表する。	(3) 次の点に気づけているかに留意して机間指導を行う。 ・同じ宗教でも宗派によって分布地域がさまざまであること ・同じ国にも複数の宗教が混在していること	

4 インドの人々とヒンドゥー教の関わりを確認する。 (1) ヒンドゥー教の信者数をノートに書く。 (2) ヒンドゥー教が三大宗教に入らない理由を、ノートに書く。 (3) 沐浴のねらいについて考え、ノートに書く。	4 リズミカルに発問しながら、ヒンドゥー教の特色を探れるようにする。 (1) インドの人口のおよそ80%が信仰していることがわかるように、資料や教科書を提示する。 (2) 予想される生徒の答え ・ヒンドゥー教はインドだけで信じられているから。 ・民間信仰だから、他の宗教とは別であるから。 (3) 自分の生活との関連が意識できるように、沐浴と入浴はどう違うか、を補助的に発問する。 →インド以外でも主な宗教としてヒンドゥー教が信仰されている国を資料から探し、学習活動の3との関連を意識づける。	
5 本時のまとめをする。	5 本時の活動を、ワークシートにまとめるように指示する。 生徒に獲得させたい概念 世界の宗教にはさまざまな特色が見られ、それは決して特別なものではない。「祈り」によって幸せを願ったり、清められたりする気持ちをもつことは世界でも見られるし、日本も例外ではない。宗教の分布も、混在と地域的な広がり両方を捉える必要がある。宗教それぞれの特色や分布を一元的に捉えず、互いの差異を認め、尊重できる姿勢が必要である。	世界の人々の宗教の特色や分布を捉える活動を通して、宗教を学習していく際の注意事項を、自分のことばで表現することができる(ワークシートの記述)。 【社会的な思考・判断・表現】
6 本時のふり返しを行い、次回の予告を聞く。	6 次の項目で振り返りを行う。 - a 最も大切だったこと - b 面白いなと思ったこと - c 授業で疑問に思った、もっと調べたいと思ったこと	

実践2 地理的分野 第1学年 第2章(世界各地の人々の生活と環境)のまとめ

世界各地の人々の生活と環境の単元のまとめとして、次のような学習課題を設定し、生活班の単位で考え、発表する実践を行った。

学習課題 あなたは岡山の旅行会社で営業を担当する社員です。担当の都市()の気候の特色や生活・文化をリサーチし、その魅力をお客様にPRします。うまく魅力が伝わり、顧客を獲得できれば、昇進のチャンスもめぐってきそうですよ。

9 伝統的な生活とその変化、第2章のまとめWS (左ページに貼ります)

学習課題 1年()組()番 氏名()

日本と違う気候の都市の魅力を、存分にPRしよう。

○あなたは岡山の旅行会社で営業を担当する社員です。担当の都市()の気候の特色や生活・文化をリサーチし、その魅力をお客様にPRします。うまく魅力が伝わり、顧客を獲得できれば、昇進のチャンスもめぐってきそうですよ。

○発表用メモ PRを担当する都市() 気候() 帯・気候

話す人	メモ・セリフ	提示資料
(例)米林		教32 雨温図拡大 33 伝統的な家

図2

9 伝統的な生活とその変化、第2章のまとめWS (右ページに貼ります)

1年()組()番 氏名()

○プレゼンテーション採点表(自分の席は不要) よくできた(5) できた(4) ふつう(3) まだまだ(2) さっぱり(1)

	担当気候帯	気候の魅力	生活の魅力	プレゼン 理解度	総合判定	一言
(例)	温帯	4	2	4	3	○○さんのプレゼンで気候の魅力を大いに感じることができた。○○の生活にもっと詳しく知れた。
1班	帯					
2班	帯					
3班	帯					
4班	帯					
5班	帯					
6班	帯					
7班	帯					
8班	帯					

○活動の振り返り 自分たちの班の発表は よくできた できた ふつう まだまだ さっぱり
理由 ○を1つけよう→ 5 4 3 2 1

図3

実践3 歴史的分野

第1学年「縄文時代・弥生時代をながめてみよう」

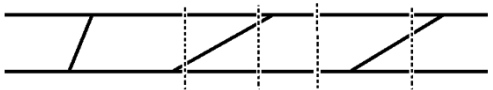
(「中学生の歴史」帝国書院)

「タイムトラベル」の場面を切り取り、縄文時代と弥生時代の生活を比べてみて、「より幸せだといえるのはどちらか」という学習課題を設定して考えた(図4)。授業の途中に新たな事実的知識(ここでは「食料」)を加える時間を設けて、再度グループ内で自分の判断を出し合う活動を行った。弥生時代は安定した食料生産が可能になった一方で、強力な指導者の存在や社会的な役割の分担や財産の格差も同時に発生した時代であった。

1 縄文から弥生への変化WS (返却後、ワークシートは左ページに貼る)

学習課題 1年()組()番 氏名()

○時代区分について



○時代比べ(左・縄文、右・弥生)

教科書の図	教科書の図

○学習課題に対するあなたの意見を書きましょう。
私は、()時代の方が幸せだと考えます。理由は()つあります。

図4

学習課題については、地理・歴史・公民それぞれの分野において、今の私たちとのつながりを意識して設定した。学習課題は、生徒同士の価値の対立が見られるものを設定するように工夫し、議論の後にも自己内対話が可能となり、後の探究的な学習に結びつけられるものがよいと考えた。なぜなら、新たな事実認識と自己の判断力のどちらの力も授業後に深められると考えたからである。学習課題は、生徒の日常生活体験や固定観念と対比可能な事実に対する問いや、複数ある選択肢に優先順位をつけたりする活動、また社会的な事象に評価を加えたり、ジレンマの状況下で答えを求められたりする課題の設定を意識的に行った。授業が進んでいく過程で、自分の中でもすっきりと解決しなかったり、判断に迷ったりする場面を意識的につくり、自己内での社会的な事象が常に今の自分とどのように関係しているかを意識して捉えさせるように指導方法を工夫した(図5)。

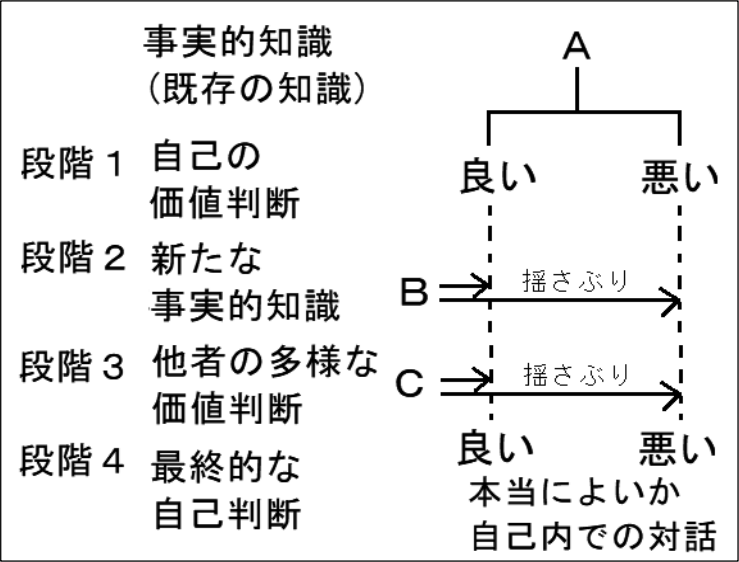


図5

(2) 振り返り活動

① 1 単位時間の振り返り活動の実践

第 3 学年の公民的分野（題材：日本の平和主義「日本の安全保障と日本の国際貢献」）で、1 単位時間の振り返りを、右のワークシート下欄で実施した（図 6）。

A 欄 自分の考えをつくる上で一番参考になった人は、誰ですか。

B 欄 どのように変わりましたか。

次の授業の開始時に、前回の授業で振り返った内容について次のⅠ～Ⅲを教師が伝えた。

- Ⅰ A 欄であがってきた生徒の名前
- Ⅱ 米軍基地の必要派・不必要派の振り返りの記述内容（それぞれ 3 つ）
- Ⅲ 他者との議論を通じて、自分の考えを根拠をもって表現することが大切であること

2 日米安全保障条約と日本の国際貢献 ワークシート

学習課題 3 年 () 組 () 番 氏名 ()

○ 日本に米軍基地は必要だと思いますか、あなたの考えを書きましょう。

米軍基地は

必要である	どちらともいえない	あまり思わない	必要ない
1	2	3	4
5	6	7	8
9	10		

理由

○ 最終的なあなたの考えを書きましょう。

米軍基地は

必要である	どちらともいえない	あまり思わない	必要ない
1	2	3	4
5	6	7	8
9	10		

○ 学習課題に対するあなたの意見を書きましょう。

○ 振り返り

A

B

図 6

② 単元の振り返りの活動の実践

同じく第 3 学年の公民的分野で、「私たちの生活と政治」までの学習の振り返りを、ワークシートで実施した（図 7・8）。学習過程を振り返ることで、自らの学びを相対化し、他者との協働的な学びの良さに気づくことをねらいとして行った。振り返りシートⅡでは、他者の振り返りに自分がコメントを書き、新たな発見をしたり、その発見を共有できたりした。

㉓ ここまでの学習を通して、あなたの中で「できるようになったこと」や「わかるようになったこと」は何ですか。

㉔ あなたの中で学習の理解が深まったな、と感じたのはどのような学び方をしたときですか。またその理由も書きましょう。

学び方

理 由

図 7

単元振り返りシートⅡ

3 年 () 組 () 番 氏名 ()

班員の振り返りを読んでコメントを書こう

コメントの書き方（例）

1 賛成	「○○の点はとてもよいと思いました。私もそう思います。」
2 質問	「△△についてはどのように考えていますか？」
3 意見	「私なら□□と考えますが、いかがでしょうか」

名前 ()

図 8

5 検証

(1) 調査の時期と対象生徒

- ①調査の時期 1 回目：令和元年 9 月
2 回目：令和元年 11 月
- ②対象生徒 本校第 1 学年生徒 178 名

(2) 調査の内容

社会科で取り組んでいる学習課題の設定と学習過程における振り返り活動が、生徒が自らの学びに新たな視点を加えたり、次の単元の学びの意欲を高めたりすることに有効であり、他者と協働し、主体的に社会の問題解決に取り組もうとする生徒が育成されているかを調査する。

(3) 調査の結果

第 3 学年の単元のまとめのワークシート（図 7・8）では、自分の学びの深まりを生徒が、どの場面で感じられるかを、次の質問を設定して調査したものである。

あなたの中で学習の理解が深まったな、と感じたのはどのような学び方をしたときですか。
またその理由も書きましょう。

生徒から得られた回答の一部を次に提示する。

○生徒の記録

学び方	最初に個人で考える → 班で交流 → 個人の意見が変わる
理由	最初に1人で考えたときに思っていたことが班内で交流することで自分の意見がひっくり返るのは理解が深まっていることだと思えるから。

学び方	反対の意見の人としっかりと討論をする
理由	自分の知っている知識を総動員して考えるから。

学び方	班で、大さなホワイトボードに自由なアイデアをいっしょに書く
理由	自分の考えたことについて、他の人から意見をもらって、自分の考えが広がって、新しい見方が出てきた。

学び方	今の国の状態や、問題と向き合っているものについて「自分がもしそうしたら」という考えを
理由	自分がもしそうしたら、という考えをもち、自分と今の状態を比べて考えるから。

生徒の学びが深まる場面は、設定した学習課題について、一人ひとりが自分のことに置き換えて真剣に考えていくことがきっかけとなる。生徒が社会的事象に対する評価をしたり、自分の価値観を書き出したりする活動は、価値観や視点の異なる他の生徒との対話を促し、対話を通じて新たな視点を見つけたり、自分の意見が広がり、やがて学びの深まりにもつながるものであるといえる。

6 今後の課題

生徒の学びが深まる場面は、設定した学習課題について、一人ひとりが自分のことに置き換えて真剣に考えていくことがきっかけとなる。社会的な見方や考え方ははたらかせながら、価値の対立する他者との意見の対話を通じて、自分のこれまでの価値を再び考え、自己内でも対話を繰り返し、このことが深い学び

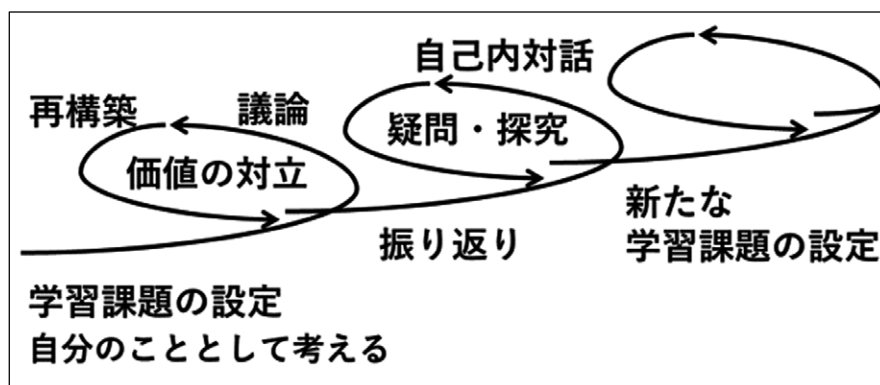


図 9

へのアプローチになると考えている。1 単位時間や単元のまとめでその活動を振り返り活動の中身も改良を加えながら，生徒にとってよりよいカリキュラムを提案できること，そしてそのことで生徒にさらに新しい疑問が生まれ，探究的に学び続けようとするサイクルをたくさん生むことを課題とした（図 7）。

参考文献・引用文献

1. 文部科学省（2017）『中学校学習指導要領解説総則編』
2. 文部科学省（2017）『中学校学習指導要領解説社会編』
3. 佐藤公（2017）『社会科「見方・考え方」論を歴史的にとらえなおす』全国社会科教育学会
4. 須本良夫・田中伸（2015）『社会科教育におけるカリキュラム・マネジメント』梓出版社
5. 今隆史（2010）『「振り返り」学習活動のすすめ』平成 22 年度東京学芸大学教職大学院課題研究 成果物
6. 歴史地理教育（2017.2）歴史教育者協議会
7. 歴史地理教育（2018.5）歴史教育者協議会
8. 社会科教育（2010.9）明治図書
9. 社会科教育（2018.1）明治図書
10. 岡山大学教育学部附属中学校（2016）『研究紀要 第 51 号』
11. 岡山大学教育学部附属中学校（2017）『研究紀要 第 52 号』
12. 岡山大学教育学部附属中学校（2018）『研究紀要 第 53 号』